

チルト3の猛攻に耐えた！
宮地元輝が今年のG I 初戦を制覇！

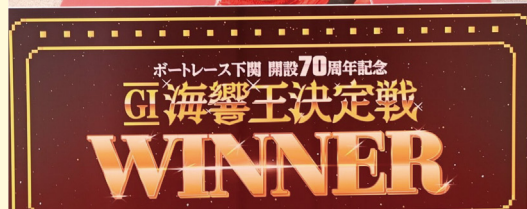


下関

1/11~16

GI

海響王決定戦



着	人気	艇番	選手名	年齢	支部	今回成績	進入	ST
1	◎	①	宮地 元輝	38	佐賀	3113311	1	11
2	○	②	馬場 貴也	40	滋賀	1312451	2	09
3	×	⑥	菅 章哉	36	徳島	4332113	6	14
4		④	吉田 拓郎	42	岡山	2242122	4	17
5	△	③	山口 剛	42	広島	1532521	3	10
6		⑤	井口 佳典	47	三重	144512	5	15
2連単		①-②		370円	1番人気	逃げ		
3連単		①-②-⑥		2950円	9番人気			

シリーズ展開

S Gかと見まごうばかりの豪華メンバーが集まったが、注目のエンジン抽選ではスーパースターの峰竜太、昨年のグランプリ覇者の毒島誠が好素性機をゲット。山口剛も2節連続V機を獲得し、この3人が戦線をリードするとみられた。だが、峰は予選1勝のみで7位、山口も予選最終日の6枠戦で5着になり11位。予選トップも狙えた毒島も4日目6枠から6着と波に乗り切れずに5位だった。その3人を尻目に快走を続けたのが宮地元輝。予選は3勝オール3連対の活躍で、GIでは自身初となる予選トップ通過を果たすと、準備もすっかり押し切ってV戦白カボックを手にした。優勝戦はチルト3度の菅章哉が大外から襲いかかったが、「本当にギリギリでした」と何とか受け止めてGI3度目の美酒に酔った。

現場記者の目

宮地元輝が手にした28号機は2節前に地元の佐々木裕美がトップクラスの伸びに仕上げた急上昇機。前年から気配は良好で、優勝戦では出足、伸びともに上位クラスにまで引き上げてのV。的確な調整を施しての3度目のGI優勝は称賛に値する。心から拍手を送りたい。ただ、優勝戦にはもう一人の主役がいた。宮地をあとい歩まで追い詰めた菅章哉だ。昨年は年間9Vと完全復活をアピールし、今節も快調な足取りで優勝戦は6枠で出走。V戦は持ち味のチルト3度を投入すると、内枠勢を次々とのみ込んでイン宮地を急襲するも、まくり切るまでは至らず3着に終わったが、GIの舞台でも菅のまくりが通用することを改めて証明した。今年中に菅のGI初Vの吉報が届くことを期待したい。(西日本スポーツ・岡部)

102期の勢いが止まらない！
山田康二が池田浩二を差し切った！



江戸川

1/14~19

GI

江戸川大賞



着	人気	艇番	選手名	年齢	支部	今回成績	進入	ST
1	○	②	山田 康二	37	佐賀	121231	2	16
2	◎	①	池田 浩二	46	愛知	31221	1	15
3		⑥	岩瀬 裕亮	36	愛知	123522	6	15
4	△	③	井上 一輝	30	大阪	1451131	3	21
5	×	④	片岡 雅裕	38	香川	1412112	4	11
6		⑤	中島 孝平	45	福井	21242	5	11
2連単		②-①		1200円	4番人気	差し		
3連単		②-①-⑥		7040円	24番人気			

シリーズ展開

初日DR賞はイン石渡鉄兵を3コース片岡雅裕がまくり撃破。2日目のGR賞は当地7年半ぶりのハンデも池田浩二がイン逃走。結局予選をリードしたのもその両名。片岡が6戦4勝で予選首位。池田が次位。江戸川は「相思相愛」と語る山田康二も近況抜群機31号と組み3位に。準優は山田、池田と順当に逃げたが…。ラスト12Rの1枠片岡のみがSを逸して井上一輝のまくり差しに屈する2着。優勝戦は結局実力最上位の池田が1枠を勝ち取り、地力の差を見せつけると思われたが…。ラストに江戸川の難しさが出た。潮止まりから上げ潮に転じるSの難しさが顕著に出る優勝戦の時間帯。池田はコンマ15の平凡S。1Mもカドから伸びた片岡に反応しターンが流れた。この隙を逃さず差した2コース山田が優勝をさらった。

現場記者の目

技量、機力、気力、水面適性。技量という一面では池田が頭抜けた存在。山田康二は機力&気力と難水面江戸川で最も大切な水面適性で池田に勝った。また、山田自身の当年にかける熱い思い、熱量もVの大きな原動力となった。「同期で一番になる。そこを念頭に今年はやっていく」と言葉に出して、自らにもプレッシャーをかけて走る闘志あふれる姿があった。一昨年は遠藤エミ。昨年は河合佑樹に前田将太と同期達のSG戴冠を眺める立場に甘んじてきた。「追いつきたいって言っている年齢でもない」デビュー18年目の37歳。いつかと甘えてはいられぬ時が過ぎた。今年、今こそ同期たちに肩を並べ胸を張る。2025年の山田は、好調102期勢の中でも要注目選手となる。(野添)